

令和7年度 世田谷区立北沢中学校自己評価報告書
(令和6年度の改善方策について実行した改善結果)

北斗の学び舎
世田谷区立北沢中学校
校長 築瀬 学

1 北沢中学校 教育目標

- (1) よく考え進んで学習にうちこめる人
- (2) 豊かな心を持ち責任をもってやりぬく人
- (3) 健康で気力に満ち行動力のある人

2 教育目標を達成するために、さまざま教育活動を通して育成する非認知能力

- (1) 目標を達成する力
- (2) 他者と協働する力
- (3) 自分の感情をコントロールする力

3 重点目標・数値による指標

令和7年度は、以下のような設定をし、教育活動を進めた。

- (1) 「ことばの力」を基盤として、教育の質をより一層高め、表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。
- (2) 教育活動全体を通じて、質の高いキャリア教育を展開し、自分らしい生き方を学び、自分づくりができる生徒を育成する。
- (3) 触れ合いを深める環境をつくるとともに、コミュニケーション能力を高め、学級・学年・学校への帰属意識を一層高める。行事等において、企画・立案の段階から生徒を参加させ、充実感をもたせ、学校生活の面で「認められている」と感じる状況を増やし自己有用感をもたせる。

数値目標1 「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」と感じる生徒の割合を85%以上にする。

数値目標2 「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある」生徒の割合を85%以上にする。

数値目標3 「生徒同士がお互いに思いやり、良さを認めている」生徒の割合を85%以上にする。

上記3つの数値目標は昨年度と同様の内容としている。数値目標1は昨年度が89.1%であったが、今年度は84.6%という結果であった。これは、授業における話し合い活動や探究活動の割合が増加し、授業を受けるという体制から、自ら学ぶ形式に授業のあり方が変化してきていることが、要因の一つと思われる。数値目標2については、昨年度が75.8%であったのに対し、今年度は77.1%と増加した。目標値にはまだ達してはいないが、各学年における進路指導の充実が見受けられる。数値目標3に関係する設定項目「学校生活は楽しい」「私は、困ったときに相談できる友達がいる」の肯定的評価は、昨年度は88.5%であり、今年度は91%であった。生徒の学校生活の充実度は高まっていることが分かった。この結果から、今後の授業形態や進路指導のあり方、キャリアパスポートの活用方法、また生徒同士の関わりについて、新たな視点からの評価が必要となると感じた。

時代の流れと共に、教育活動も柔軟に対応していかなければならないということあらためて感じる機会となった。

4. 学習指導

今後の学習指導は、「どう教えるか」ではなく、「どのように学ばせるか」が重要となってくる。教師の指導技術は大切であるが、教師がどのように教えるか、ということについてはこれまで注視されてきたことである。今後の学習指導に必要とされることは、授業における教師のファシリテーション力である。学びに興味関心を抱かせ、生徒が自ら学びに向かう学習環境をどのように与えるのかが問われてくる。そのため、授業観察は「生徒がどのように学びを進めているか」という視点で行っている。「教師の指導力」から「生徒の自ら学ぶ姿勢」への移行が求められている。

5. 生活指導等

「個の理解」が生活指導の礎となる。教職員は生徒一人一人を理解し、常に情報共有をしながら柔軟な対応ができなければならない。同時に、生徒自身が判断・選択する場面を作ることで生徒の「自己指導力」の育成を目指す。また、キャリアパスポートを活用することで、生徒の自己表現力の向上を図る。自分の取り組んできたことを振り返りながら、自己肯定感や自己有用感を得ることで、今後の課題にも向き合うことができるよう指導していく。

6. 学校関係者評価委員会の報告書より〔次年度に向けての提言〕

全体として、本校の教育活動は良好であり、今後ともこの方向で継続されることを期待する。その上で、次年度に向けての以下の提言を行う。

- ①学習指導については、基礎的な知識・技能の確実な習得の上で、生徒が主体的に参加する授業のあり方を一層考究する。また、様々な領域で探究学習を進めていく。
- ②生活指導については、自己指導能力の育成の観点から、生徒自身が判断・選択する場面を作る。また不登校などの生徒に対して、本人・保護者の意向を踏まえて学級全体で対応する。
- ③キャリア教育については、様々な領域で生徒が将来への夢を抱くことができるようにすると同時に、具体的な進路選択に関する多様な情報を提供する。
- ④ICT や AI についての適切な活用方法を学ぶ機会を設けると同時に、SNS の活用に関して保護者の理解を得ながら指導を行う。

保護者・地域への情報提供については、日常的な授業の様子や学校の教育活動等についての理解が深まるような発信を行う。

結びに 『魅力ある学校』（＝目指す学校像）を目指して

本校の目指す学校像「魅力ある学校」とは以下のことである。

- 「生徒が来たくなる学校」
- 「保護者が我が子を行かせたくなる学校」
- 「教職員が明るく働きがいのある学校」
- 「地域にとって親しみと理解と協力のある学校」

これを実現させるためには、確かな学力を育成する学習指導、TPO に応じた行動ができるようにする生活指導、生徒が未来社会を力強く進んでいけるための資質・能力を育む進路指導、安心安全で保護者・地域と共に育てる開かれた学校であることが求められる。

子どもたちの明るい未来のために、日々教育活動を進めていく。